防災特集
子どもたちに根付かせたい、防災の種を

2011年3月11日、東日本大震災が起こりました。あの大震災から3年半が経ちますが、多くのかたが記憶に新しいことでしょう。津波が家々をなぎ倒し、車を軽々と浮かび上がらせるあの映像を見たとき、これが現実なのかと誰もが自分の目を疑ったに違いありません。あの大津波で多くの尊い命が犠牲になりました。

日本は世界に類を見ない地震大国であり、いつ起こってもおかしくない東海・東南海・南海地震が想定される地域に私たちは暮らしています。地震が起こったとき、いかにして自分の身を守り、家族や周りの人たちを守ることができるのでしょうか。

今回は、子どもを持つ母親の立場で防災活動に取り組んでいる山本道子さんに日ごろの活動について、お聞かせいただきました。

総務課広報情報係　☎㉕1114

山本道子さん

防災活動のきっかけ

約15年前の子どもが小さかったころ、子育ての相談などができる友達を求め、市が主催する母親教室へ参加しました。もっと子どもや母親仲間との遊び時間が多くなればいいなと思い、教室に来ていた友達3人で「子育て応援!!0・1・2・3サークル」を立ち上げたのが始まりでした。

子育て支援の活動の中で、ある町の津波避難訓練のDVDを見る機会がありました。その訓練で高台まで逃げるのがいちばん遅かったのは、5歳児を持つ母親でした。理由を聞くと、子どもが訓練のサイレンにおびえてしまい、動けなくなってしまったそうです。歩けるから大丈夫だろうと見過ごされやすいということでした。このDVDを見て、子どもを連れて逃げるのはいちばん大変だから、いざというときのために自分で勉強しなければいけないと思いました。

また周りの子どもを持つ母親はなかなか防災講演会などへ参加できず、ほとんど防災の知識もありませんでした。男の人が働きに出ている昼間に地震が起こったとき、まちを守るのはその場で動ける小中学生や私たち主婦だということを認識して防災教育を広めていかなければいけないと思い、防災の勉強を始めました。やってみるといつの間にか興味を魅かれていました。そして身の回りのものを使って体を守る方法などを考え、防災教室で実践している内容につながっていきました。

宮城県南三陸町への防災バスツアーを企画

東日本大震災が起こってから3年半が経ち、復興が少しずつ進んでいく中、被災地の現場や被災された人たちがどう震災から立ち上がっていったのかを見るには今しかないと思っていました。また鳥羽の子どもたちに被災地の現場を見てほしかったのですが、なかなかその手段がありませんでした。

そんな状況の中、私たちも参加している防災ボランティアほっとでは、毎年子どもたちを連れて行く防災ツアーを実施していましたので、今回は南三陸町を訪れようということになりました。市の地域のためにがんばる団体応援事業費補助金を受け、なんとか防災バスツアーを実現することができ、36人ものかたが参加してくれることになったのを知ったときはとても嬉しく思いました。

津波で被災した南三陸町防災庁舎

語り部さんから聞いた震災のときの中学生の活躍

南三陸町にある海に近い戸倉中学校は、高台にありながら20メートル以上の津波で校舎の1階が浸水してしまうほどの被害を受けました。その

中学校であった震災当時の貴重な話を語り部さんから聴かせていただきました。

震災発生直後、津波が迫ってきている中、中学生たちが自分の着ているジャージを脱いで、袖を縛り合わせ、津波から逃げて土手を這い上がってくる人たちを、引っ張り上げて助けたそうです。

また、津波が収まった後、避難所となった中学校には多くのけが人が運ばれてきていました。そこへ低体温で意識のない状態で運ばれてきたかたに、3月の雪が降る寒い最中にも関わらず、5人くらいの中学生が上着を脱ぎ、何時間もその人に抱きついて自らの体温で温め続けました。その後、病院に搬送された彼はなんとか一命を取り留めたそうです。

防災バスツアーに参加したみなさん

このような被災地で実際にあった現実の話を聴いている参加者の目からは、涙がこぼれていました。

椿プロジェクトによる高台への道しるべ

南三陸町は、海の町だから今後また津波が来るだろうということで、高台までの道を知らない観光客などにも分かるよう、椿を目指して行けば高台へ行ける避難路を計画しているとのことでした。震災後に津波の塩害から椿だけが枯れずに残っていたことや、また地元の名産であることから椿を植えることにしたそうです。将来、津波がきても枯れない椿を道沿いに植えようと、子どもたちが種を拾って植えていくプロジェクトです。私たちが訪ねたとき、この椿のプロジェクトを紙芝居で子どもたちにも分かりやすく紹介してくれました。

この震災で得た教訓を、自分たちのところにあるものを利用して防災へつなげていこうとする姿勢に感銘を受けました。

椿プロジェクトの紙芝居

防災教室へぜひ呼んでください

東日本大震災直後は、志摩市のほか県内各地から依頼があり、保育所や学校などで防災教室を行ってきました。でも今は声を掛けられることが少なくなりました。

防災教育は、風化しないよう常に伝えていかなければなりません。新しい発見があって内容も変わっていきますが、同じことを何度も教えること、繰り返すことが大事だと考えています。自分たちができるうちに子どもたちに伝えていきたいと思います。

防災バスツアーで中学生が活躍した話を聴いて小さいころから防災意識を持つことが大切だと感じました。これからこのまちを背負っていく子どもたちが防災教育を受けて、防災意識を高く持ち、鳥羽を守り続けてほしいと願っています。またこの地域に津波が来るようなことがあったとき、一人の子どもの犠牲も出したくないという思いで、活動を続けています。

市内の保育所や幼稚園、小学校などで子どもたちに話をしたいと思いますので、防災教室へぜひ呼んでいただき、お役に立てればと思っています。

だんご虫ポーズをとる親子

防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞

山本さんが代表を務める「子育て応援!!0・1・2・3サークル」は、子育て中の母親ら3人で平成12年に発足し、平成17年からは、サークル活動に親子で楽しく学べる防災教室などを取り入れてきました。

この教室では、地震のときに身を守るだんご虫のポーズをとったり、新聞紙でスリッパを作って瓦礫に見立てた卵の殻の上を歩いてみたりと実際に母親の立場で、災害が起こったときにどうしたら子どもの命を守れるかを教えてくれます。

このような住民への防災意識の普及に貢献した功績が評価され、平成25年度防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。